

日曜日に近くで診療可能な医療機関のご案内

受診する場合には、必ず電話で確認をしてから来院してください。

医療機関等	電話番号	住所
医療法人 恭昭会 彦根中央病院 ▼受付時間 午前8時30分～11時30分 午後1時～3時 ▼診療時間は診療科により異なりますので、必ず事前に電話で確認をしてください。	0749-23-1211	彦根市西今町421番地

彦根休日急病診療所のご案内（日曜・祝日・年末年始（12/29～1/3）の急病時）

受診する場合には、必ず電話で予約をしてから来所してください。

医療機関等	電話番号	住所
彦根休日急病診療所 ▼受付時間 午前9時～午後4時30分 ▼診療時間 午前10時～午後5時（昼休憩除く）	0749-22-1119	彦根市立病院敷地内 くすのきセンター1階 (彦根市八坂町1900番地4)

その他、医療情報の音声案内 ☎0749-23-3799
または、医療ネット滋賀をご利用下さい。

医療ネット滋賀
ホームページ



子どもなんでも相談室

◆子どもの気になる症状「インターネット・ゲーム依存」

インターネットやゲームを「好き」で「やりすぎる」こと、「依存する」ことは違います。その違いは、問題になる前に「自分でやめられるかどうか」です。ネットやゲームをやりすぎて多少問題が起こっても、そこで利用方法を見直せるのであれば、まだ健康といえるでしょう。

「依存」はやめたくても止められない状態です。ネットやゲームのやりすぎによって、睡眠不足やお金の使いすぎなど、明らかな問題が起きているにもかかわらず、自分で止めることができません。周りの人が注意しても、行動を制御できない状態です。

依存は、「心が現実逃避し、つらい状況を自分で何とかしようとする」ときに起こります。現代社会は充足感を得にくいこともあり、「ネット・ゲームをすれば現実から逃げられる」という感覚を味わうことで、依存が強まっていきます。その背景には、「自分で自分を肯定することができず、誰かに認められたいのに、誰にも評価してもらえないと感じている」、「認められたい気持ちと現実へのだたがりがあり、それを埋めようと努力してもうまくいかない状況」、「一見問題ないが、自分が望むコミュニケーションが得られないことに苦しみ、孤独感を感じている」などがあります。ネッ

トやゲームは気軽に楽しめ、充足感を得ることができるため、次第にうまくいかない現実社会が面倒になっていくのです。健康状態が崩れたり、学校を休みがちになったりしたら、受診を検討してみましょう。

家庭で大切なのは、使用時間のコントロールと、バランスのよい使用です。全て断つということは現実的に難しく、子どもから大きな反発を受けることが考えられます。まずは子どもが夢中になっているネット・ゲームの話否定せずに耳を傾け、ネットやゲームに「居場所」を求める気持ちを理解しましょう。本人だけが変わるのではなく家族も意識の変化が必要です。少しでも本人ができたことを評価し、そのうえでネットやゲームの付き合い方を一緒に考えていけるとよいでしょう。

参考：『ネット依存・ゲーム依存がよくわかる本』樋口 進

『子ども・若者支援に関する公開講座 インターネット依存への医療的対応』片山 素久

健康推進課
子育て世代包括支援センター
☎0749-42-7661



壺中雑記 (24) — 歴史文化博物館から —

「當宿調法記序」
— 中山道愛知川宿記録 —

「當宿調法記」は、元和九年（1623）～天和二年（1682）の中山道愛知川宿における大きな出来事を23項目に分けて記録した（内、6件は欠く）冊子であり、江戸時代前期およそ60年の間に起こった事件などをリアルに書き記しており、江戸時代の愛知川宿の記録として貴重なものです。

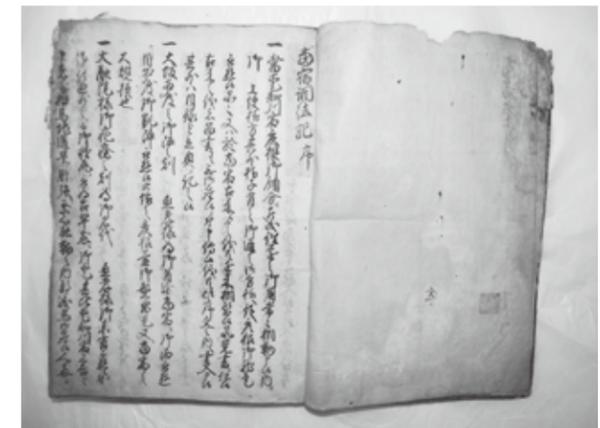
「當宿調法記序」

中山道愛知川宿は、近江八幡の武佐宿、彦根の高宮宿に挟まれ、旅籠が28軒、大名・公家の宿泊する本陣・脇本陣が軒を連ねる宿場でした。

しかし、その状況を知るための史料が大変少なく、詳しいことがほとんどわからない状況でした。

平成に入り、愛知川町史の編さんにより、調査が行われ、一冊の記録書が個人宅（森野家）から発見されました。上下二巻の上巻ですが、元禄一二年（1699）二月の作成であることがわかります。

巻頭の「當宿調法記序」に、「古来之儀ハ留書も無御座候ニ付申傳候儀共此序文之内へ書入申候」として、本記述以前の略記録は序文に書き記し、「其外ハ目録迄立與二記之候」とあります。



▲「當宿調法記 巻上」

「當宿調法記」本文

目録には、17件の出来事が記されています。

- ①御茶壺御下向に付、累年彦根より御馳走の事
- ②當宿へ御公儀様より下され物並び拝借上納事

- ③御高札度々かわり並び駄賃木錢御定め云々事
- ④京都所司代並び彦根御當筋度々御かわりの事
- ⑤公方様甲府様館林様へ三ヶ度御祝言の事
- ⑥松平伊豆守様伊勢御登の節、御殿様御出事
- ⑦當宿において一ヶ月に三度珍事これある事
- ⑧道中御見分の御上使御下向の事
- ⑨御国廻りの御三人、御順見の事
- ⑩當宿に付、京都より御検使御下向の事
- ⑪當殿様御入部並び御領境
- ⑫紀州様御登り、當宿御昼休の事
- ⑬池尻中納言殿御登りの節騒動の事
- ⑭信州の飛脚乱気になり自害の事
- ⑮伊勢道において彦根大工殺害致す事
- ⑯御国御上使御三人御順見の事
- ⑰朝鮮人来朝の事

「御茶壺御下向」は、俗にいう御茶壺道中で、承応年間（1652～）から約60年にわたり記録されています。毎年将軍（御三家）に献上する宇治の御茶は、中山道や東海道を運ばれますが、献上茶は大名格の扱いを受けるため、彦根藩の役人たちの接待の様子や、御茶壺の仰々しい行列の様子が事細かにわかります。

⑦では、日ごろ穏やかな愛知川宿において、ひと月の間に3度にわたり自害や殺害の事件が発生したと記し、それぞれ事件の発端から顛末までが記述されています。

また⑮では信州上田の飛脚が宿泊をめぐり相手に斬りつけ、そのあとで自害したという事件の経緯が記されています。

⑰は朝鮮人来朝と記す通り、天和二年の将軍綱吉襲職祝賀の朝鮮例幣使の通行記録です。総勢475人の使節が通行しています。将軍や彦根藩主への進上品などの記述や、通行の馬・人足の調達に右往左往する様子が記されます。

歴史文化博物館 学芸員
大友 暢